

くつきりしました

住民投票をめぐる3つの焦点

いよいよ5月17日が住民投票の日。「大阪市をなくしたらアカン」という方はもちろん、「まだ迷っている」という方も、くつきり浮かび上がった3つの焦点をぜひご覧いただきたいのです。

1

大阪市

なくすのか、
活かすのか

橋下市長は今度の「住民投票」で「大阪市を廃止する」という中心問題を語りません。「ミニシティはなくならない」といいます。しかし、「大都市における特別区設置法」には「関係市町村を廃止し」とはつきり書いています。大阪市を「廃止」しないというなら、法違反ではありませんか。ごまかしはききません。政令市・大阪市を守り、その財源、権限を市民のために生かすことを求められます。

2

くらし

つぶすのか、
ささえるのか

「特別区」になれば、直接はいる税収がいまの4分の1になるのに、どうやって庶民の暮らしをささえるのでしようか。国保も、介護保険も、子どもの医療費助成も危ない——私たちの批判です。橋下市長は、これをごまかすために「投票公報」に「敬老パスは市営交通以外にも拡大」などと書いています。4年前のダブル選挙でも「敬老パスは維持します。私鉄にも」と宣伝して「有料化」しました。もうだまされるわけにはいきません。

3

新たな財源？

いいえ、
ばく大な
コスト増

橋下市長は、「二重行政解消」で生まれるのは「2700億円」「4000億円」と宣伝します。ところが、その根拠は「二重行政」に関係ない「地下鉄売却」「市有地売却」などで超水増ししたものです。いまムダな「二重行政」はなく、橋下市長が言う「4000億円」は市の資料では「1億円」です。逆に「特別区」を設置したら、「680億円」のコスト増になることは、橋下市長も否定できません。



若者でにぎわう
ヨドバシカメラ前で宣伝
民青大阪府委員会など青年たちは10日、梅田のヨドバシカメラ前で、若者向けの独自ピラを配布、シール投票も行って対話にとりくみました。

政治の手法も大問題です

橋下市長は、大阪市の権限、財源を吸い上げて「一人の指揮官」にし、チェックをかける市議会もつぶして、やりたい放題の体制をつくらうとしています。「上から目線」の「大阪市つぶし」を許すのか、それとも政治的立場をこえて、「大阪市をつぶすな」「くらしをこわさず充実を」との願いで一致した市民が、共同で新しい大阪をささぐのか。庶民の大阪、どちらがふさわしいやり方でしょうか。

「まだ疑問が…」「こんなやり方では決められない」という方も

「反対」を。一度こわしたら、元にはもどせません

